

2017年7月2日

福音書からのメッセージ

わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。

(マタイによる福音書 10章 34節)

このイエス様の言葉ですが、なかなかすっと心に入ってこないという人も多いのではないかと思います。わたしたちが教会に足を運び、礼拝するのはなぜなのか。それは心休まりたいから。希望を与えてほしいから。確かな約束をもって、導いてほしいから。わざわざ苦しい思いをするために、来ているのではないのです。

しかしイエス様は言われます。「わたしは、平和をもたらすために来たのではない」と。「平和」という語は、世界において争いがない状態をイメージさせるかもしれませんが。だから平和といわれると、自分とはあまり関係のないものだと感じてしまう人もおられるでしょう。

今日は少し、この言葉のイメージを自分に近づけて、イエス様のみ言葉の意味を深めてみたいと思います。「平和」と訳されている語は「平安」とも読むことができます。平和というとなんだか世界全体の問題のように思えますが、平安というと、わたしたちの心の内側のこととしてとらえることができるのではないのでしょうか。

波一つない海の上、ただ静かな風だけがそよぐ原っぱ、満点の星空の下で遠くに聞こえる虫の声に心を向ける。もしも今、わたしたちがその中にいたとしたら、心休まることでしょうか。文字通り、「平安」な心を持つことができます。

イエス様との出会いが、わたしたちの心に平安だけを与えてくれるものだとしたら、どれほど嬉しいことでしょうか。しかし現実には、そうではありません。教会に通うことで、また祈ることで、わたしたちは時



に傷つき、痛み、明日に向かって歩くのがつらくなることだってあります。

イエス様との出会いによって、わたしたちの心は揺り動かされます。ときにはマイナスの方向に、向かって行ってしまう。でも

わたしたちは知っています。イエス様は必ず、わたしたちのそばにいてくれることを。そして苦しみ以上の喜びが、そして涙にまさる笑顔が与えられることを。

イエス様は、剣(つるぎ)を与えるために来たと言われました。わたしは思います。その剣の矛先はわたしたちに向けられているのではなく、イエス様ご自身に向けられているのではないかと。

イエス様はわたしたちに剣を与え、その刃でご自身を貫くようにと、促されます。わたしたちは、本来であれば自分たちが刺されるはずだった剣をイエス様に向け、本来であれば自分たちがつけられるはずだった十字架に、イエス様をつけたのです。

でもそうやって、死の中から復活したイエス様は、わたしたちに命を与えてくれました。不安の中で、恐れの中で、歩み続けるわたしたちが、生きるものとなるように。それこそがイエス様が遣わされた目的なのです。そのために、イエス様は剣を引き受けて下さったのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>